

2025 年度 新人看護師育成 年間計画

■年間目標

- 1. 看護専門職としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動できる
- 2. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のニーズを把握することができる
- 3. 基本的看護技術を習得し、実施できる
- 4. チームの一員であることを理解し行動できる

■教育体制

- 1. 特定の指導係を置くのではなく、チーム全体で新人看護師を教育・支援する『チーム支援型』とする
- 2. 新人看護師と同年代のチューター（決まった相談相手）を置き、業務の進め方や悩み事の相談など広範囲に支援する
- 3. 副主任は新人看護師・チューターと状況を共有し、計画の修正を行う
- 4. 技術チェックリスト等を用いて進捗状況を確認し、計画的に体験できるように病棟内で共有し、スタッフそれぞれが技術習得のための指導を行う
- 5. 日勤・夜勤共に完全に独立するまでは日々の指導役を置く
- 6. 評価は 7 月までは月 1 回、9 月、11 月、1 月に行い、3 月は 1 年間の振り返りを行う

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
月間目標	職場環境に慣れる ☐ 病院の構造・設備がわかる ☐ 病棟の構造・設備がわかる ☐ 病棟の特殊性・役割がわかる ☐ 日勤業務内容がわかる ☐ 助言を受けながら測定・判断ができる バイタルサイン・SpO ₂ 状態の観察 ☐ リーダーに報告する内容がわかる	複数の患者を受け持ち、指導を受けながら実践・報告ができる ☐ VS 測定、状態の観察ができ、記録できる ☐ リーダーに報告する内容を理解した上で報告できる ☐ 患者ケアや移乗・移送の際は安全を配慮した行動がとれる ☐ 未経験の看護技術等に対しては自ら積極的に見学や実施を申し出ることができる ☐ 与薬するまでの過程を理解し、指示と照合することができる ☐ 患者を個人として尊重した態度で接することができる	複数の患者を受け持ち、自立して看護実践・報告ができる ☐ VS 測定、状態の観察ができ、疾患と関連付けて判断できる ☐ 患者の検査に関わる ☐ 指導の下、輸液管理について学び、輸液ポンプの操作ができる ☐ 患者の変化に気づき、判断し、報告することができる ☐ 不明なことはチューターや日々の相談役等に相談することができる ☐ 透析中の患者の理解、看護を見学・実践し、透析室と病棟との連携を知る ☐ 他部門の位置や連絡手段が理解できる	受け持ち患者の日勤業務を組み立て、実践できる ☐ 受け持ち患者の 1 日のスケジュールを組み立て、指導を受けることができる ☐ 看護計画を理解し、実践している看護ケアと連動できる ☐ 他メンバーと協働して、患者の清潔ケアが完結できる ☐ 腎外外来と連携して透析導入患者の看護と処置を見学する機会をつくる	静脈注射プログラムに沿って見学・体験・実践 ☐ 担当看護師と共に重症者看護を実践する ☐ 褥瘡ケアと予防ケアを理解し、実践できる ☐ 危険な心電図波形、酸素療法について理解する ☐ 患者の安全に配慮した行動・声掛けができる
留意事項	・ジェネレーションギャップを感じる時期なので、病棟環境に慣れることが最優先 ・各種マニュアルに添った方法で指導する ・少人数から受け持ちを行い、徐々に増やしていく ・過度の時間外勤務が生じないように配慮する	・自立できた看護技術、要指導の技術、未経験の技術を病棟全体で把握して関わる ・4 人程度の受け持ち患者の看護実践・記録が達成できるように配慮する ・スタッフとコミュニケーションがとれているか確認する ・自己の体調管理ができているか確認する	・疲労が蓄積している時期であることを周囲が理解する ・4 月以降できたことをフィードバックし、達成感が持てるように振り返りを行う ・早めに習得すべき技術を明らかにし、計画的に進められるように助言する	・受け持ち患者の日勤業務の組み立ての確認は必要 ・重症者以外の患者はほぼ担当できるようにする	・日勤業務が自立できるように見守る ・重症患者看護は臨地実習での経験もないため丁寧に指導する
勤務の配慮	日々の指導者と共に日勤業務を行う	指導を受けながら日勤業務を実践	指導を受けながら日勤業務を実践 希望に合わせ夏季休暇を取得	自立した業務と自立できていない業務を明らかにして支援	日勤業務は自立
研修	入職時オリエンテーション 4/16 身体拘束最小化研修	5/9 社会人基礎力習得セミナー（都看協） 5/22 輸液ポンプ・シリンジポンプ取り扱い研修	透析室見学 新人看護職員研修（TMNP・6 月～2 月）	腎臓外科外来・手術室見学	

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月間目標	重症患者の看護ができる ☐ 重症患者への看護経験を通して臨床倫理を学ぶ機会にする ☐ 患者の状態を正確に報告できる ☐ 後期に習得すべき知識や技術を明確にする	急変患者の対応を理解する ☐ 急変時対応を実践後は振り返りを行い、達成できたこと、課題を明らかにする	夜勤業務が理解できる ☐ 夜間帯の看護について学ぶ ☐ 患者の観察項目を根拠を基に述べることができる	自立して夜勤業務ができる ☐ 患者カンファレンスに参加、看護計画立案・評価等を通してスタッフと討議することができる	未達成の手技・看護を抽出し、習得するための計画を立案・実行する ☐ 3月までに習得すべき事項に関しては部署を超えて実践する機会を作るか、デモンストレーションを行う	1年を振り返り来年度の個人目標を立案することができる ☐ 達成可能な目標・計画を立案することができる	チームの一員として看護が実践できる ☐ 病院が提供する医療・看護ケアを理解している
留意事項	・日勤業務はほぼ自立している時期ではあるが混乱が生じたりもするため、理解できるまで指導を繰り返す	・患者の急変は時に精神的ショックとして記憶に残ったり、できない自分として責めたりすることにもなるため、振り返りを行うと良い	・夜勤業務は最低でも2回トレーニングする ・的確な看護判断の有無や新人の精神状況によって夜勤業務開始は強要しない	・患者の状況判断や提供する看護について意見が述べられるような環境をつくる			
勤務の配慮	指導を受けながら重症患者の看護を実践	指示を受けながら急変時の対応を実践	指導を受けながら夜勤業務を実践	夜勤業務自立	過度な業務、極端に過小な業務になっていないか、常に確認する		
研修	新人看護職員研修（東京都ナースプラザ）						